



代表取締役会長

大戸武元

代表取締役社長

浦聖光人

## 好感と信頼を寄せられる企業をめざして。

新体制2年目に向け、さらにグループ価値向上を追求

2005年12月、ニチレイグループは創業60周年を迎えました。節目の年である2005年度は、5つの事業会社からなる持株会社体制による新たなグループ経営へと移行した年でもありました。

2005年度を振り返ってみますと、持株会社体制のもと各事業会社が機動力を発揮し、新しい顧客価値の創造に取り組んだ結果、グループ全体で目標の数値をほぼ達成することができました。また、分社化により従業員一人ひとりにとって経営がより近い存在となったほか、ガバナンス体制の見直しにより経営の意思決定に多くの人が参加できるようになりました。一方で、新たに策定した「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。”というブランドステートメントは、分社化したグループの求心力を高めるうえで大きく寄与したものと考えています。

社会全般では、昨今、倫理観の欠如による企業の不祥事が立て続けに発生し、経営のガバナンスを問う法規制も強化されるなか、組織に属する個々人の高い倫理性や真の顧客満足の実現がより厳しく問われています。加えて、食品業界においては、BSE問題の再発や鳥インフルエンザ対応など、依然、食の安全・安心を揺さぶる不安定な環境が続いています。また、残留農薬などに関するポジティブリスト制も施行されます。このような環境下で、ニチレイグループが持続的に成長を続けていくためには、これまで以上に企業としての社会的責任(CSR)を従業員一人ひとりが自覚し、その責任を十全に果たしていくことが重要になります。そうした考えのもと、ニチレイグループでは、「6つの責任」を明確に位置づけ、グループ全体の企業価値を高めるべく、具体的な施策を積極的に推進してきました。

### 「6つの責任」に基づき、具体的な施策を展開

ニチレイグループでは、2004年から取り組んできたCSR(Corporate Social Responsibility: 企業の社会的責任)プロジェクトで定義した「6つの責任」に基づき、具体的な施策を進めています。

「新たな顧客価値の創造」とはニチレイグループが提供する新しい商品やサービスそのものです。例えば予防医学に基づく「健康価値」の提供に取り組むほか、健康にまつわる情報をホームページ上で、積極的に提供するなど、食の観点から暮らしを見つめ、お客様の課題を探り、解決するための商品やサービスの提供に努めています。このような事業活動の前提条件となるのが、安全・安心の追求です。当社グループでは、生産現場に携わる従業員の意識向上とISO認証取得などの管理体制の確立・強化に取り組み、品質の維持・向上に努めています。

また、新しい顧客価値を創造するには、従業員がいきいきと働ける職場環境がなくてはなりません。「働きがいの向上」として、従業員のワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の両立)を実現するために制度の整備を積極的に行っています。2005年4月に提出した次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画の通り、9月には、仕事と生活の両立を支援する「ワーク・ライフ・バランスセンター」を設置し、妊娠・育児・介護と仕事の両立に悩む従業員の相談を受けて、多様な働き方の支援を行っています。

「コンプライアンスの徹底」については、法務部門の強化や従

業員教育の充実に加えて、「今日一日の仕事を家族に胸を張って話せる」ことを基本に、従業員一人ひとりの意識の向上を図っています。代表取締役会長による「全国コンプライアンス説明会」も2005年度で3年目を迎えました。

「コーポレートガバナンスの確立」については、各事業会社へ大幅に権限を委譲し、プランニング機能の充実と意思決定の迅速化を実現しました。また、経営監査グループによるセルフチェックに加えて、持株会社内に事業経営支援グループを設置してモニタリング機能を強化し、意思決定のプロセスの透明性を高めました。今後も、各種委員会を整えながら、適宜組織の見直しを行っていく予定です。

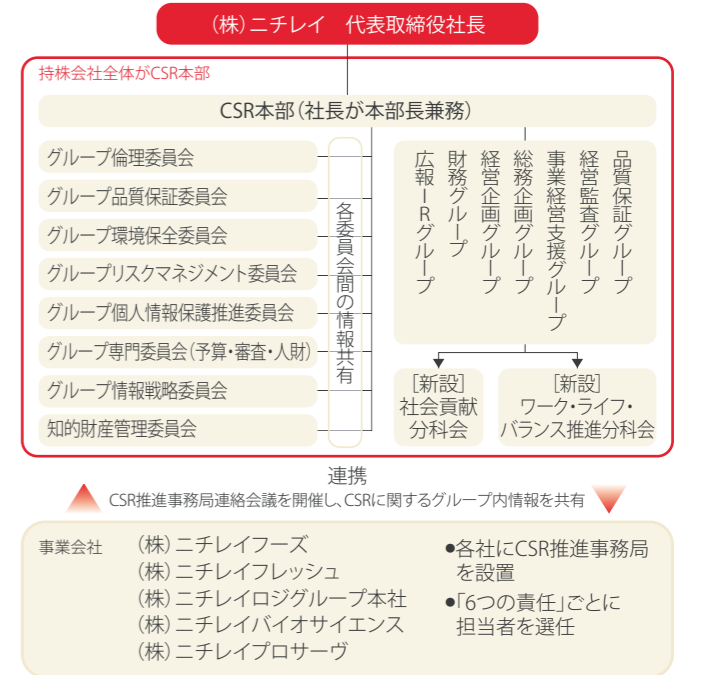
「環境への配慮」においては、これまで同様にあらゆる環境負荷のゼロ化をめざす「ゼロエミッション」を推進していきます。商品においても見直しを行い、環境負荷の少ない食品素材の調達・開発や、冷凍食品の包材の削減に取り組んでいます。また、物流の効率化で省エネルギーに貢献する「共同配送」の提案や、トラック運送よりエネルギー効率の良い鉄道運送に切り替える「モーダルシフト」を進めるなど、さまざまな方法でCO<sub>2</sub>削減に取り組んでいます。

「ニチレイらしい社会貢献の推進」では、「健康価値」の提供をめざすニチレイグループらしく、“食”とあわせて健康の維持向上に欠かせない“運動”をテーマに、女子プロゴルフ「ニチレイレディス」やトリノオリンピックの金メダリスト、荒川静香選手などが参加した「ニチレイアセラ presents Theater on Ice 2006」、女子サッカー「日テレ・ベレーザ」などのスポンサーとなりました。また地域貢献として全国の事業所におけるさまざまな活動も継続しています。

さらに2006年4月には、これら「6つの責任」に基づく取り組みの一層の浸透を図るために、持株会社内にCSR本部を、各事業会社にCSR推進事務局を配置し、グループ各社が一体となってCSR活動を推進する体制整備を行いました。

今後も“ニチレイグループが果たすべき責任とは何か”、“自分が行えることは何か”を従業員一人ひとりが常に考え、適切に実践できる組織風土の醸成に努め、ステークホルダーの皆様から広く好感と信頼を寄せられる企業として、成長を続けてまいります。皆様の変わらぬご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。

### CSR推進体制



### ニチレイグループ「6つの責任」

6つの責任	目標	具体的取り組み例
新たな顧客価値の創造	新たな商品やサービスを創り出し、生活者の課題解決をする	●安全・安心のさらなる徹底 ●サプライチェーンマネジメントの着手
働きがいの向上	従業員の働きがいを高める	●ワーク・ライフ・バランスの実現(仕事と生活の両立) ●ダイバーシティの推進(障害者雇用・高齢者等の雇用の安定等に関する法律の一部を改正する法律への対応)
コンプライアンスの徹底	法律や規制を守り、倫理性を高める	●CSR視点による行動規範の改訂とその浸透 ●情報セキュリティ対策の強化(個人情報保護を含む)
コーポレートガバナンスの確立	透明で迅速な経営を行う	●組織移行後の権限委譲と統治機構の明確化 ●内部監査機能の強化
環境への配慮	地球環境への負荷を軽減する	●ごみゼロやエネルギーの削減 ●冷凍食品の包材の削減 ●低温物流事業の中での共同物流によるCO <sub>2</sub> 削減や輸送手段を環境負荷の低い船や鉄道利用に変えていくモーダルシフト
ニチレイらしい社会貢献の推進	「食」「健康」「運動」をキーワードとした社員参加型の社会貢献の推進	●「食」「健康」「運動」をキーワードとした貢献活動の推進 ●ニチレイふれあい財団(仮)の設立検討
	コミュニケーションの活動の推進	●ステークホルダーとのコミュニケーションの強化